

日本アールグ社

棒針編

★創立30周年
記念出版

ワンポイント
アドバイスつき

秘訣と要点

縮小版



とじ込み付録

木の葉模様のセーター
作り目から仕上げまで

棒針編 秘訣と要点

日本ヴォーグ社

この本の特長と組み立て



©PATONS 1895年に作られたペートルンの編物ブックの表紙

1、棒針編を美しく編む秘訣のすべてがわかります

どんな習いごとでも、その技術をマスターするには、通りいっぺんの程度なら簡単ですが、奥に秘められたコツ（秘訣）を覚え込むには容易なことではありません。

それを会得するにはたゆまない修練があってこそその腕に達することのできるのです。しかもその技術のポイントを知ると知らぬのでは、出来上がる作品に大きな違いが出来てくるわけですから、どうしてもベテランをぶす以上修得しなければならぬことです。

ですから一流の下あみの作家といわれる人々はその秘訣を十分打ち合わせている人ばかりといえましょう。それではどうやってそれを体得して来たかといいますと、やはり長年にわたり、患部に何枚も何枚も編んでゆく中に忽ち、妙所を自分でついつつ発見し、積み重ねてきたものです。もちろん、数多くの失敗や回り道を経なければ到達できなかっただけに貴重であり、その秘訣や要点をお弟子以外の人に教えることはしなかったのです。しかも先生によって得意、不得意があって、必ずしも技術のすべてを教わるわけにはいかなかったのです。

この本の特長の1つは、手あみ講師養成講座のカリキュラムに準拠して初心者立場に立つて棒針編の秘訣と要点の全貌を網羅してあることです。

2. 目的に合った技術の 使い分けが出来ます

作品づくりの名人といわれる人は、自分の編もうとする作品のイメージにぴったり合った素材と編み地を選び、形にマッチした技法で編みあげ、始末や仕上げをしております。

棒針編の技術には、類似技法が数多くありますが、その中からどの技法を選ぶか重要な問題です。「とし」ひとつにしても、技法が変われば、結果である仕上がりの状態は全く変わってしまいます。そこで、素材や編み地によって、どんな技法を使ったら良いか、機能上や美しさの点から判断することが大切です。くいかえるとベテランともなれば、そうした判断が自然と出来る人のことです。

テクニックを知ると同時に、それらの技法の特徴を知り、更に編み地や作品による使い分けまでの知識を得るには、やはり長い年月を必要とします。

本書では、掲載してある技術は、1つ1つその特徴と、どういうときに使うのが最適か、という点を明記してありますので、迷わずに技術の使い分けが出来ます。

3. 内容は見やすいテーマ別に 分類してあります

本書に掲載してある技術は、①素材と編み地、②編み方の基礎と応用、③形づくり、④仕上げ方という4の項目を採り上げ、更に内容を10の項目に分類してあります。その上、10分類の内容(細目)は、それぞれ扉の裏面に掲載してありますので一目でわかります。ですから、「困ったな」と思ったときにはすぐに探しだすことができます。

4. とじ込み付録の目的と生かし方

本書の巻末には、カラー頁でとじ込み付録をつけました。棒針編の模様の中では最も魅力的といわれる「木の葉模様のセーター」をテーマに採り上げ、作り目から仕上げまでのプロセスを、図解式で解説した技術特集です。本書で採り上げている個々の技法を組み立て、実際の作品の中でそれをどう使っていくかという使用例です。他の作品にも、同じように本書の技術を生かしてください。

SWJ22/02

分類	内 容	頁
素材と編み地	1. 素材と編み地	5
	2. 作り目のすべて	23
編み方の基礎と応用	3. 基本になる編み目	41
	4. ケージと割り出し	53
	5. むずかしい編み目	71
形づくり	6. 増減目のいろいろ	91
	7. 止め、とし、はぎ	127
	8. ケージ調整と分散増減法	153
	9. 部分製作の技術	165
仕上げ方	10. 始末と仕上げ	225
応用	11. 作り目から仕上げまで 木の葉模様のセーターを編みましよう	271



1. 素材と編み地

模様編の本を見て、この模様が気に入ったから毛糸を編んでみよう、生手模様を決めてから毛糸を買うことがあります。又、一方においては毛糸の見本帳を見て、色が美しいとか、あるいはタイプが変わっていておもしろいから、ぜひ編んでみたいということ

から糸を先に決めることもあります。いずれの場合にも大切なことは、編み地も素材もと欲張らないで、ポイントを一つにしほることです。つまり、編み地の凝った作品にするか、それとも素材の持ち味を生かしたプレーンな編み地にするかを定めることです。

1 素材のおもしろさを生かしたいとき 7

- 1-1 ブークレ..... 7
- 1-2 ネットヤーン..... 9
- 1-3 モヘア..... 10
- 1-4 リボンヤーン..... 12
- 1-5 筒状の糸..... 13

2 変わった色や質感を生かすとき 14

- 2-1 段染め糸..... 14
- 2-2 引きそろえ..... 15
 - ① 糸を太くするための引きそろえ..... 15
 - ② 配色をテーマにする引きそろえ..... 16
 - ③ 変わり素材を生かすための引きそろえ..... 16
 - ④ 変わり素材の使い過ぎを防ぐための引きそろえ..... 19

3 どの位糸を買ったら良いか 20

糸分量の見積り方

- 3-1 婦人用ブルオーバーの糸量の見積り方..... 20
- 3-2 10cm平方を編むために必要な糸量..... 21
- 3-3 糸を買いたすとき..... 22
 - ① 少し多めに買う..... 22
 - ② 不足分を買いたす..... 22
 - ③ 同じ糸がないとき..... 22

【素材のおもしろさを 生かしたいとき

最近、素材の種類が大変多くなってきました。カーペットのもの、カーテンのもの、モータイクスのもの、リボンカーテンなど、変化に富むものがたくさん出てきています。何物もどんなにベテランになると、普通モータイクスのみだけでどうして足も届き足らない、もうと複雑な、突いた表情が編み地を求めるときになります。

初心者に対しては「変わり素材はプレーンな編み地に」と、一言を聞かされた経験があります。しかし変わり素材にもそれに適した模様があり、上手に使えばプレーンな糸では味わえない味と質感が得られるのです。そんな意味から、ここでは変わり素材が代表的なモータイクスのものを数種類上げ、効果的な模様の選び方について考えてみます。

ONEPOINTADVICE

変わり素材の味を随分生かすためには、編み地はプレーンなものほど効果的です。複雑な模様を入れると、模様の美しさはもろろん、素材の味も殺されてしまいます。

1-1 ブークレ

ブークレとは「丸められた」とか「舞われた」といふ意味の言葉です。糸ばかりでなく、種やカーペットの織り地のこともブークレと呼びます。最近ではカーペットも普通モータイクスの糸と同じように簡単に丸手出来、ほど気軽に使われるようになりました。

ブークレは下の図A図のように、回糸に巻く編み地の糸が合せて巻手になっています。この編み地は編み地の使用率が、ブークレを編む上での基本ととらえています。

ブークレの図解



模様の選び方

ブークレは糸自体に動きがあり、起伏があるため、複雑な模様を落とすと失敗します。むしろ編み地はシンプルにし、糸の持つ独特な表情を素直に表現しましょう。

写真①はブークレに縞縞を足す加えてなお編みしたものです。素材が複雑な上に、配色の引きもろえであり、しかも文意編の起伏が重なったため、はっきりしない編み地になってしまいました。②は変わり編と交差させる回数数を倍にし、なれるなれる間に縞縞を入れました。こうしますと編み地に凹凸



ブーケレは素材自身に伸びがあるため、出来上がった作品が伸びたり、ダレたりする危険性があります。スタンダードな糸と引きそろえにするのは、それを防ぐ意味からも効果的です。

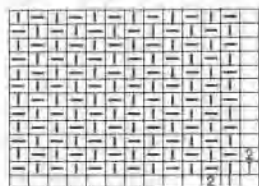
が出来、模様もややはっきり表現されてきます。しかしこのような複雑な模様は大変危険性が多いため、③の1目かこのように模様の単位をさらに小さくし、より、地模様気になりますと失敗しません。

ブーケレの使い過ぎ

ブーケレばかりをむやみに使い過ぎるのも適心にはません。ブーケレは普通サイズの糸に比べて値段も高いし、作品がむやみに重くなるのも重くすればの原因になります。

例えば④の写真的のように、ブーケレを糸より2〜3倍に編んだものが10cm平方で10gありますので、これで婦人用ブーケソーバーを編むとすると約650gほどになることになります。⑤はブーケレと水色同色の無刺繍を2本加えたもので、編み地の表情、厚みもやや同じ位です。重さは10cm平方で8g、ブルソーの1全体にするとかなりな差が出てきます。

次はブーケレ1本に、同色の無刺繍を1本加えて巾着にする編み出したものです。⑥は鉤針編の1目より短編で、10cm平方で11gあります。⑦は無刺繍の格子ですが、こちらは10cm平方で8gです。野鳥をたらしにしてもわかるように、この2つの模様の感じは非常に強く似ているので、こんな場合は鉤針編の模様を遊ぶ方が発想ということになります。



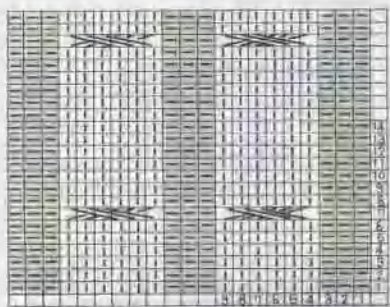
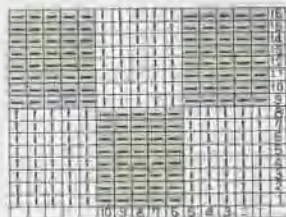
1-2 ネップヤーン

ネップヤーンとは、糸の通り手づかみでえられた糸で、細いカールの芯糸に、ネップがからみ付いている素材です。写真のように大層変化のある糸ですが、扱いが難しくかたく、素材の持ち味を毀さないような編み地を選びたいものです。



編地の選び方

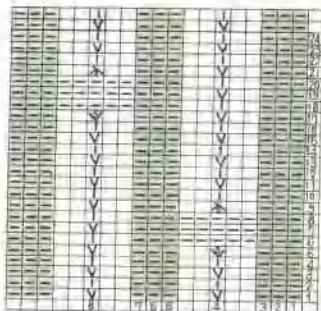
素材が複雑ですから、編地ははっきり表現されないように、節交から、普通タイプのリブ編みを基本として編んでみました。また、素材の起伏に抵抗がないため、模様自体から体感のある地模様を選んでみました。①は模様は、いざれを種細糸を加えて模様です。かなり効果的に機織編の良さが表現されております。②は①の②のように、あまり複雑な模様、手紡糸が模様を潰すと失敗します。



ONEPOINTADVICE
ざらっとしたネップの感触もいいものです。素材自身を持つ凹凸感に負けないような、起伏のある模様、パンチのある模様を選んで、アウトウエアなどを製作してみよう。

毛足の長いモヘアを使うときは、なるべく単純な模様を選びます。複雑な模様を入れても、長い毛足で模様が消されてしまいます。編み地の風合も、あまり固く編むのは避けます。

ONEPOINTADVICE



1-3 モヘア

モヘアとはアメリカ山羊の毛のことを言い、動物繊維の中で最も光沢が見事で、毛の長さ、柔らかさともにすぐれています。最近はこの天然繊維の質感を化繊で代用したものが多く出回っています。化繊100%のもの、またワールをやや混紡してあるものなどですが、天然繊維より光沢もあり丈夫です。ただワール特有の柔らかい質感には及ばないようです。モヘアに画したデザイン

①はどのようにモヘアの質感を生かしたかのために、どうしても太い針で織ると編みこくなります。写し(1)は、モヘアの本質を捉えてよく検討したものです。②は透かし模様、③は引き上げ模様ですが、

いずれもモヘアの質感を生かす模様としてはお勧めです。

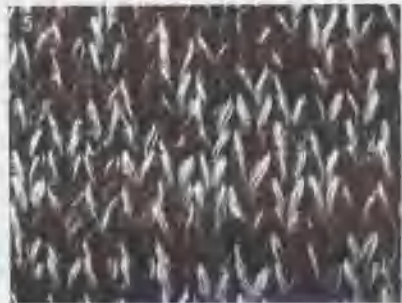
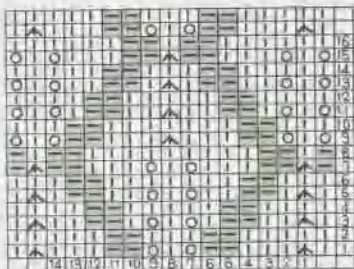
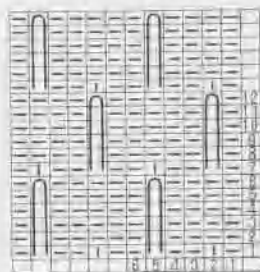
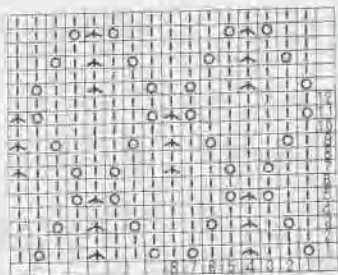
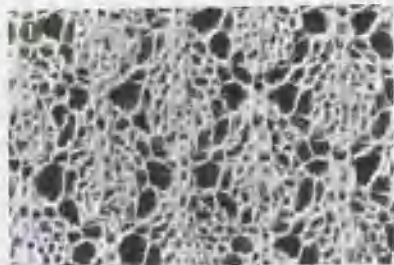
④は、糸が太くて、しかもぎゅぐゅ編みますと太くなるので、プレーンな編み糸を1本加えてみるのも一つの手法です。⑤はモヘアに細線1本加えた例です。この程度ですと模様も効果的に表現され、伸びもよく、モヘアの質感や風合も損なわれておりません。

⑥は、何本かの糸を併せて太く織ることで、引き毛を生かす織合は、モヘアを1本加えますが糸のからみが太く感じとなり、引き毛を生かす効果が低減に留められます。

ワンポイント
プロトタイプ

ONEPOINTADVICE

ざっくり編んだモヘアの編み地は、着くすれの原因になります。試し編は、びんと張ってアイロンをかけてからゲージを計ることが大切です。モヘアにはアイロンをかけない人がいますので注意。



1-4 リボンヤーン

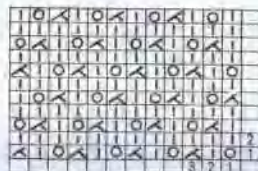
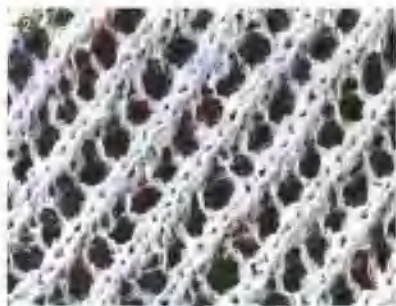
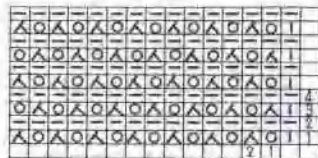
ONEPOINTADVICE
リボンヤーンを最も美しく見せるのは、遠かし模様です。メリヤス編やゴム編などは、糸のねじれが目立ち、リボンの光沢まで消されがちになります。ねじれない編み方も工夫してみましょう。

華しい光沢と色、なめらかな感触を持ったリボンは、女性にとってはあこがれの素材であり、魅力ある素材です。リボンヤーンには、朝リボン、夕陽のリボンがあり、それぞれ幅の広いもの、細いものがあります。リボンヤーンは他の素材と異なり、扁平で幅の広いものですから、扱い方もわずかに、糸で見たときの美しさが、ひたすら編み地に表れせないもので、リボンの持つ、あの独特な風合を最高に生かした、効果的な編み方を研究してみましょう。

リボンヤーンの効果的な使い方と模様編

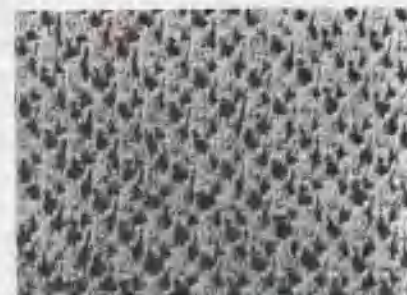
リボンがねじれないで、断片的な素材の良さを活かせる模様を選びました。実際には、毛編や交差模様など、立体感のある編み目など、その効果はあります。リボン(平編)だけでは平織はなりやうしため、リボンにはねじれやすそ、アなどをおさませる編みでも効果的です。

2段目(2)と、リボンにモミアヤをかき混ぜたものです。斜くてふわりとした感触のらびさつの素材は、かなり良く上げ込んで効果的です。あまり硬い模様の編みよりは、この程度の単純なものの方がきれいです。



1-5 筒状の糸

中心に穴があいたようになっていて、筒状に編みである。ネットのような糸です。従って糸が割れることもなく、大きく軽いので、大型スポーツウェアに編み上げられます。伸縮性が大きいので、メッシュのような箇所から模様にするのが最適です。ただし作品のゆるみ分岐、毛の脱着など、伸縮の多い素材としての注意が必要になります。



△	○	△	○	△	○	△	○		
								4	
△	○	△	○	△	○	△	○	3	
								2	
○	△	○	△	○	△	○	△	2	

△	○	△	○	△	○	△	○	△	○		
										8	
△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	6	
										5	
○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	4	
										3	
△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	2	
										4	3
										2	

△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○		
														8	
△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	7	
														4	
○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	3	
														2	
△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	10	
														9	
△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	8	
														7	
○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	6	
														5	
△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	4	
														3	
○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	2	
														1	

ONEPOINTADVICE
伸縮の多い素材を使うと、編み目同志がお互いに融通し合って、編み目の不ぞろいが目立ちませ
ん。ゴム編をベースにした模様なども、素材の持ち味を生かした編み地として効果的です。

段染めモヘアの模様編も素通です。コントラストの強い段染めのときは、なるべく小柄な模様を選びます。淡い色調同志の段染めでは、大柄な模様もよく合います。

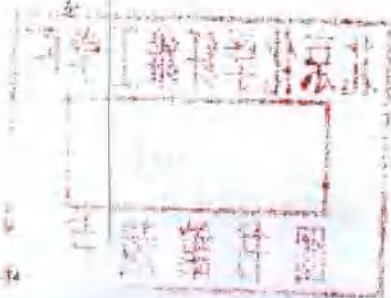
2 変わった色や質感を生かすとき

2-1 段染め糸

段染め糸とは、1本の糸が同色もしくは色に染め分けである糸を指します。普通はローミ色が等間隔に染められ、織はと色が自然に浮かびて来ます。

山は並太毛糸タイプの段染め糸つくりやす編にしたものです。織の目の節をまよと動かして織いたよなる。動的でリスとカトルを編み地です。タリ糸編は1段の目の高さが低いため、色の消ちは横段になります。

図は①の裏面です。図に比べて色が混然としていません。これはローミのロープとロープが色を分するため、当然このような結果になります。段染め糸を使った効果はあまり発揮出来ません。



2-2 引きそろえ

引きそろえとは、言葉の通り糸を例本に合わせて糸を合わせることで、例本に合わせて編む目的には、糸を太くしたり、また同色か合わせてきれいな色を作り出すなどいろいろあります。1行に言えば、自分だけの特殊な糸を作り出す、ということになります。つまり既製の糸では味わえない質感、色彩、または糸そのものを、自由に作り出せるという魅力があるのです。しかし、ただむやみに糸を変えただけでは、効果的な引きそろえは出来ません。あるとだけの糸材を、あるとの手ごまきで作り出すために、このように考えなくてはなりません。

① 糸を太くするための引きそろえ

基本的な糸太き方として、糸を太くするために何本分の糸を合わせて編む方法です。中細毛糸を2本とりでたり、極細毛糸を3本とりでするなど、これは昔ながらよく使っている方法です。単に糸を太くして厚地に編んだり、またはその逆、薄く仕上げることが目的です。糸は同じ種類の糸のみで、青染する太さだけ例本に合わせて編むのが、1本しのびがあります。より糸材合などによって、引きそろえによって糸太さのものが異なります。

写真①は極細毛糸2本の編みですが、比較的糸の太さが揃い、しかも太い糸です。2本の糸が合います。編み目としてはこの糸材の空間が目立ち、太さがきれいな編み目とは異なると言えます。

写真②は中細毛糸2本に合わせた糸、即ち極細毛糸4本に合わせたもので、これで見れば編み目の表情の進化が明らかになり思いますが、どうも糸の太さが揃っていません。編み目がしつかりと落ちついていません。つまり糸の太さが揃っていません。糸の太さは糸の太さを合わせる内がないこと、反例に甘んじて編み目は効果的ではないことがわかります。

このように例本の糸を合わせた場合、その中に1本太く糸を加えてみましょう。写真③がその例ですが、糸太さの毛糸で糸材が揃っていきなり、全体の仕上がりが異なります。



ONEPOINTADVICE

「なんのために引きそろえをするのか」をはっきりさせてから糸の選定をしましょう。目的によって、素材の組み合わせ方が違ってくるはずですよ。当然それに合った編み地の選び方も変わります。

カーン、ネップ、ツイードなどの素材は、本来カジュアル感覚のものです。しかし細い金ラメ、銀ラメなどを引きこめるると、ドレッシーな作品に向く編み地になります。

② 配色をテーマにする引きこもえ

既製の糸の色では物足りぬ。独自の、好みの色を何色か合わせて編み、色のミックスにより全然イメージの違うものを作り出すことが出来ます。

①はエメラルドグリーン、オレンジ色、やや赤みを帯びた黄の色引きこもえです。カラーのなめらかな色の判断が出来ませんが、配色と単色関係にある色が大変良くなじみ、複雑ながらも美しい編み地になっています。

ただここで注意したいことは、3色以上の色を含めると、まとまらない傾向が多くなります。無計画にただ多くの色を合わせるのは、後味が分散して、ちぐはぐなものになりやすいのです。そんなときは必ず無彩色の糸を1本加えてみることで、白、グレー、黒など、色の密着を補って色を1本加えると、見違えるほど効果的な引きこもえになります。写真②がその例です。赤、黄、エメラルドグリーンの子原色に黒を1本加えまして、けいげんしい感じも押えられ、大変落ち着いた雰囲気のものになりました。

ジャンの編組の糸の色を作り出すときは、特にこの配色について注意しなければなりません。編み目が比較的用意になるジャンの編組では、どうしても引きこもえの色が美しく見せる作品になるからで、フランスのジャンの編組の作品には、必ず白の糸が入っていますが、なるべく取り混ぜる組み合わせでしよう。



③ 変わり素材を生かすための引きこもえ

変わり素材の使い方は大変むずかしいものです。本頁でも各種の変わり素材を採り上げて説明しておりますので、大体の傾向はおおかりいただけると思います。つまり変わり糸で模様編をする場合は、普通タイプの糸を混ぜますと素材の表情が柔らかくなり、模様が生きてくるのです。

では写真③から見て下さい。①はブーケトキ糸で模様編にしましたが、糸の長さが模様を消し、これでは完全に失敗です。そこでブーケトキ糸の素材を1本加えて編んでみました。②は同色の麻糸を1本、③はダブルルネー（超編糸）を、④は配色の中細之本、⑤は中細1本とモヘア1本をそれぞれ加えたものです。ご本人のように混ぜた率によって大衆感には変わって来ますが、しかしいずれのケースも模様は生きています。またベースになったブーケトキ糸も失われず、むしろブーケトキ糸のときより変化がある、おもしろい編み地になっています。これが中編なのです。

